

外部検証委員会（経営体分野）次第

日時 平成 29 年 11 月 9 日（木）午後 6 時から
場所 益子町役 203 会議室

1 開会

2 出席者紹介

3 配布資料の確認

4 案件

（1）概要説明（総務部長）

（2）施策ごとの検証（シート毎ではなく、各施策・複数課のシートに渡り質疑）

（3）その他

5 閉会

外部検証・意見シートの提出について

既にお配りしている「様式 2 外部検証・意見シート」につきまして、本委員会終了後 10 日を目安に、返信用封筒をご利用いただきご回答をお願いします。

新ましこ未来計画外部検証委員会（経営体分野）議事録

日時	平成 29 年 11 月 9 日(木) 17:50～19:30	
場所	役場 職員休憩室	
出席者	委員	安藤委員、海老澤委員、和久委員
	職員	加藤総務部長、加藤総務課長、日下田企画課長、富賀瀬税務課長、小堀健康福祉課長、和久高齢者支援課長
	事務局	吉永係長、岩崎
配布資料	次第、推進状況総括シート、推進シート、事前質問・回答一覧	

発言者	発言要旨
総務部長	1. 開会 2. 出席者紹介 省略 3. 配布資料確認 4. 案件 (1) あいさつ・概要説明 第 2 四半期・本年度総括シートにより説明
委員	(2) 施策ごとの検証 18:03 ○P.63 施策 1 安定した財政運営 昨年この時期は 2,200 万円程度であったと記憶しているので減少しているという事か。
企画課長	減少している。
委員	寄附額から返礼品代金を差し引き、さらに益子町から流出しているふるさと納税による減っている税額を鑑みた実質収入額を知る必要があるのでは。総務省から言われている返礼品額 3 割はいつから実施か。
企画課長	寄附額のうち返礼品の代金は町が事業者を支払う仕組みになっている（寄附額－返礼品代＝事業充当額）。全国で返礼品の高額化が進んでいることから、上限金額を 3 割に設定するようにと総務省から連絡がきている。益子町の場合は極端に高額のものではなく、高くても 4 割程度であったためこれに関する収入額はそれほど大きくは変わらない。
総務部長	ルールを守ると減るが、実際には以前から変わらずに高額な返礼品や換金しやすいものを出している自治体もある。町の財政だけでなく、地域活性化として効果的であるかもしれない。

委員	ふるさと納税専門誌とはどのようなものか。
企画課長	(実物提示) 経費はかかるが、1 ページ分の広告を掲載した。
委員	体験型寄附件数が徐々に増加しているが、割合はどの程度か。観光として有意義であると考えている。道の駅が面白い事業を実施しているので、コラボすることも良いと考える。陶器市来場者が以前よりも弱年齢化しており、若者や子育て世代の観光客が目立っている。この世代は、体験が大好きで、自分のためにお金を使いやすい世代とも思える。
企画課長	件数はそれほど多くはないが、タケノコ掘り、芋掘り、いちご狩りなどがある。いちご狩りはこれからが季節のため、下半期で増えると見込んでいる。商品を送付するだけでなく、来町して頂いて町の雰囲気を知ってもらいたい。
委員	寄附額が減れば一般財源からの持ち出しが増えるという事か。
総務部長	その通りである。周知や返礼品などいろいろな働きかけをしているので、長期的に効果が出ればよい。
委員	東京での周知活動はわかるが、米沢では効果があるのか少々疑問を感じる。
委員	○P.64 施策2 長期的視点に立った財政計画の策定 KPI を町債額としているが今年度の金額と事業がリンクしていないように感じる。会社では各事業で収支の見込みを立てているが、自治体の場合、施策ごとに売り上げがあるわけではないことから、翌年度の予算をつくる時点で町債額をあらかじめ決定しているのではないか。
企画課長	返す以上の金額は借りないという事になっている。
委員	基本は会社と同様で、年度の計画を立て、達成するかどうかで判断するようになっている。
総務部長	事業を実施しなければ町債は減るが、バランスが必要である。
事務局	委員の質問の趣旨は、KPI が金額であるのに推進シートの行動内容が財務書類作成となっており、KPI 達成に直接的につながらないということか。
委員	その通り。このためすでに決定している年度末町債残高との相関がうまくつながらない。

企画課長	今年度から町の財政を複式簿記にしたことにより、予算を把握しやすくする仕組みに変えた。
委員	月次決算はしているか。
委員	自治体の決算は会社とは異なり、プライマリーバランスで判断していると思う。
委員	<u>○P.65 施策1 行政経営の効率化</u> 今年度から企画課で事業評価のデータ収集をしているとあるが、どのように進めているのか。
企画課長	事業の効率化を考え、統廃合することを目的に実施している。外部検証の結果を含めて見直しをしている。
総務部長	担当者が事業評価を行うと、事業を廃止するという選択ができないことが多い。一つ始めたら一つ廃止するというように進めていきたいが、廃止しないでほしいという町民の声もあることから廃止することが難しい面もある。
委員	指定管理者制度を活用すると、どのような変化があるか。
企画課長	人件費等の削除のほか、施設そのものが利益を生まない性質のものもあり状況によって異なるが、民間事業者の特色を生かしたサービスを提供できる例もある。
委員	それが良いものかどうかの判断は難しい。
委員	<u>○P.66 施策1 職員の人材育成</u> 職員研修はあしぎん総合研究所によるセミナーを実施しているという事だがどのくらいの時間数を受講するのか。
総務課長	一般職員は3時間、新採職員は一日である。あしぎん総合研究所以外では広域行政事務組合の研修も行っている。
委員	中堅職員セミナーに参加した方は、上司から見ると成果があったか。
総務課長	研修内容は専門的なものであるため効果がある。
委員	専門的なものであるなら、仕事に活かせるよう人事異動も考慮できるとより効果的であると考ええる。
委員	人財育成は重要であるので各自のレベルアップが図れるよう長期計画で実施すべ

	きである。 <u>○P.67 施策1 公共サービスの新しい担い手の支援</u>
委員	アンケートの回答は 20 件という事だが、良い提案があったか。
企画課長	今回のアンケートは、提案というより町民活動支援センターが必要かどうかを知るために行った。環境保全、福祉、子ども育成を行う団体からの回答が多かった。基礎的な項目のほか支援センターの設置についてはあった方がよいという回答が多く得られた。今後は本当に必要であるかを精査していく必要がある。
総務部長	会議室やコピー機などのセンター機能をもった施設が欲しいという回答が多かった。
委員	センターに関するアンケートをしているという事は、場所や予算などの目途はついているという事で良いか。
総務部長	場所については、ある程度の目途はあった。
企画課長	新築は費用が掛かりすぎるため、今ある施設を有効活用する前提であった。アンケートからは団体の会員の高齢化という課題も確認できた。
委員	ファミサポに新規の動きがあったようだが、どのような会員か。
健康福祉課長	塾の送迎が 2 人。述べ 37 人が利用している。
委員	七井の団体は、来年度イベントを実施するとあるがどのような団体か。
高齢者支援課長	地元で困っていることをどうにかしていきたいという団体であり、コミュニティの維持、住民の交流、高齢者の困ったことの支援などを行うこととしている。イベントを開催した中で人材を発掘したいという事になっていたが、イベントは中止になってしまった。10 人を超える人数が団体のメンバーとして集まっているが、自治会との連携として自治会長連絡協議会とも連携を図っていくこととしている。年齢層は様々であり、50 代～70 代である。
委員	定期的に会議をしているのか。
高齢者支援課長	人材を発掘することが初めの目標であり月 1 回ペースで予定していた。会長の仕事がかかり忙しくなってしまう現在は、会議を開けなくなってしまった。
委員	子育て支援センターの現状とファミサポとの関係性は。

健康福祉課長	子どもの遊び場として遊具を置き、自由に走ったり遊んだりできるスペースと、母親や世代間交流が出来るスペースのほか、今年度まとめる育脳プログラムを活かしていきたいと考えている。ファミサポとの関係は、子育ての拠点施設となることから、センターをここに移して拠点としていきたいと考えている。
委員	役所内だと夜間や土日の活動が難しいことから活動しやすくなると感じる。
委員	福井県鯖江市には企画課から視察に行ったのか。たくさんの有意義な活動をされており驚いた。
事務局	ホームページの検索による。小さな事業でも民間で運営ができており行政としても効率化が図れている好事例と考えている。
委員	<u>○P.68 施策2 地域の「ちから」の結束への支援</u> アンケートの33団体はどのように把握したか。
企画課長	各課で把握している団体情報を集約し、関係しそうな団体を取捨選択した。
委員	地域創生活動支援補助金はどのような団体に交付したか。
企画課長	小宅古墳群の菜の花栽培、菜種油商品化に関する活動を行う団体。自治会も対象となるが、通常の自治会活動から離れて地域活性化につながる活動を求めている。ハードルが高すぎたかもしれない。
委員	埴・星の宮の宝を育てる会を対象としないか。夏休みの1週間にプログラムを組み小学生向けに各講座を行っている。自治会から1万円を補助しており、ほぼスタッフの手弁当で行っている。
総務部長	事業費2/3以内、100万円上限としているため、ある程度の事業規模を想定している。
委員	いくべ会こそ対象とすべきではないか。
総務部長	担当課を通して話はしたが、申請がなかった。花の会も同様。
企画課長	補助金をあてにしていない団体が多いが、コンテストには応募してほしい。
委員	活動をPRすることも大切。PR費用にあて、対外的に発信することが重要。花いっぱい運動コンクールの時期を早めるという事だが、年間を通して審査するよ

	うにすると、年間を通した手入れが必要となり地域もきれいになると考える。審査のタイミングでたまたま花壇の状態が悪くなってしまう例もあることから審査員は大変かと思うが、自治会も力を入れているため通年審査してもらえると嬉しい。また、アドバイザーを活用しているそうだが、どのような制度か。
生涯学習課長	通年審査については実行委員会に持ち帰り検討したい。アドバイザーは、県の制度により、無料で井頭公園所属の専門の方に来ていただける。
委員	アドバイザーについて、もっと PR していろいろな自治会に知らせるとよいのでは。
総務部長	原自治会は真岡市北陵高校の協力を得て徳ヶ池のほとりに植栽している。15 名ほど来ていただける。お礼にピザを焼いている。
委員	こういった例を生涯学習振興大会で紹介して、他の地域にも広めたい。
委員	いきいきクラブについて、市貝町はどのような活動をしているか。
高齢者支援課長	市貝は会員加入が停滞した理由を探って、会長のみで行っていた勧誘など課題をひとつずつ解決するようにした。役職を担うことが負担になっていたため、市貝町社協が担うことにしたなど。益子町でも現在アンケートを実施しているが、どこがどのような役割を担うかが課題となっている。行政や社協でも、どのような支援ができるのかを調整する一方、自治会などでもいきいきクラブの独自の活動、地域貢献、社会貢献活動などについて、どこまでできるかを支援していかなければならないかなどについて協議をお願いしていくことが必要である。すでいきいきクラブの下に位置するグループが存在していて、支援体制ができている自治会や、クラブの活動を存続していくために必要な支援内容について協議をしている自治会もある。
委員	埴いきいきクラブも環境保全会から資材・日当を出し、花を植えることをお願いしたところ、喜んでやっていただけた。
委員	(4) その他 財政力指数は県の平均より低いようだが。
企画課長	高くはない。
委員	職員採用試験の応募者が少ないようだが。
総務部長	郡内でも益子町は少ない。原因を探る必要がある。
事務局	外部検証・意見シートは2週間以内にご提出お願いいたします。

5 閉会

新未来計画 事前質問・回答一覧(平成29年度 上半期)

質問 番号	新未来 計画 ページ	担当課	事前質問	回答
1	61	企画課	①成果指数であるプライマリーバランスについて、H28年度は3億8,280万円と黒字化を確保したが、前年度より大幅に減額した。この数値は当初の計画予想と比べてどのようなものであるか。	①について 黒字化を確保していることで予定どおりと考えている。 プライマリーバランスの黒字は、現在の健全な財政運営を継続していくための目標である。
2	63	企画課	①体験型返礼品(農作業、ゴルフ、宿泊)は大変有益な事業であるがその反響はいかがか。 ②道の駅との連携等は具体的にどのような進捗であるか。	①について 体験型返礼品については、イモ掘り体験1件・タケノコ掘り体験4件・いちご狩り23件、ゴルフ利用券16件・宿泊3件と活用されている。 ②について 返礼品提供事業者であり、現在7商品を提供している。
			③ふるさと納税額本年度の目標額は5,000万円だが、達成の見通しはいかがか。もし未達成の場合、どんな影響が出ると考えるか。 ④ふるさと納税額増加の方法として、返礼品の充実、チラシ配布や雑誌等への広告掲載など広報活動以外に検討している施策はあるか。	③について 現在、約1,000万円の寄付金を頂戴しているが、例年年末に申し込みが多く、今後の伸びに期待したい。しかしながら、目標額到達については厳しいと予測している。ふるさと寄附金については、環境保全や教育、文化振興のための事業の財源として見込んでいるため、未達成の場合には一般財源による持ち出しが多くなる。 ④について 寄附者にとっても魅力あるものとするため、返礼品については常に見直しを行うとともに、新しい返礼品の発掘や、専門誌への広告掲載も行ってゐる。また、陶器市でのPR用チラシ配付なども継続的に行っている。
3	63	税務課	①町税徴収を図るため、滞納者に対する納税相談を行っているが、相談件数は多いのか。	①について 納税相談は、通常業務時や窓口延長(毎週金曜日の17:15から19:00及び第1第3土曜日(事前予約が必要)の午前中)時に実施しているが、その他に電話や臨戸訪問の場合もある。相談内容は、随時交渉記録に保存しているが、通常業務時間中の相談件数はカウントしていない。窓口延長時の相談件数は日誌に記載しており、平成28年度の実績は、金曜日が40件、土曜日が4件となる。

質問 番号	新未来 計画 ページ	担当課	事前質問	回答
4	63	観光商工課	①8月東京、9月米沢にてふるさと納税チラシを配布し結果はこれからと思うが、感触・反応等はどうかであったか。	①について 観光PRと一緒に配布しているため、様々な機会に多くの人の目に触れることになっており、一定の効果が期待できると考えている。
5	64	企画課	①上半期については財務書類の作成準備であるが、準備は予定通り終了したか。 ②町債額(残高)について、現状値70億9,581万円であるが、本年度目標額69億2,417万円に達成する見込みはあるか。	①について 順調な進捗状況となっており、現在は一般会計の財務書類を作成しているが、予定通り年度内に全体財務書類まで作成できるものと考えている。 ②については、 29年度末において、68億8,455万円の見込である。
6	65	総務課	①現在の職員数は行政改革大綱上の職員数に対して多いのか少ないのか。職員の定数管理はどのように行っているのか。	①について 現在一般職職員は行政改革大綱上の基本とする職員数154人に対し153人となっている。また定員管理にあつては各課の業務量見込み、退職予定者数などを考慮して行っている。
7	65	企画課	①新システムの事務事業シートは29年度から作成であり、現在はH29年度各課事務事業評価のデータを収集し、各課労働力のデータの精査及び事務事業評価に移し替えているとのことであるが、この評価をすでに活用しているのか。	①について 現在実施している事務事業に対し、それに係る労働時間を比較検討し、事業の必要性や統廃合などを検証し、新未来計画事業も含め、翌年度予算に反映させていきたい。
8	66	総務課	①民間機関での研修について、どのような職種にどのくらいの期間を行なっているか。	①について あしぎん総合研究所が主催する一般企業社員向けセミナーを受講している。 (新採職員セミナー 期間1日:6人 中堅職員セミナー 期間1日:2人 上半期)

質問 番号	新未来 計画 ページ	担当課	事前質問	回答
9	67	企画課	①町民活動団体へのアンケートについて、アンケート結果の集計結果はどうであったか。またその結果により今後の方針はどのように検討しているのか。 ②公共サービスの新しい担い手について、全国事例研究を行っているが、本町でも取組が可能な事案はありましたか。	①について アンケートは町民活動団体の基礎的な活動状況のほか、町民活動に対する支援の希望等について調査を行った(別添報告書を参照)。本アンケートの結果を踏まえ、まず社会福祉協議会を含めた関係課による庁内での方向性を確認し、次のステップへと進めていきたい。 ②について 福井県鯖江市「提案型市民主役事業家制度」では、各部署が行っている事業の中から市民団体等が【新しい公共】の担い手として行った方がよい事業を「市民主役事業」として創出し、公と民の役割分担を見直し、市民の自治力を高めるという事業がある。
10	67	高齢者支援課	①七井の団体について、定期会議は実施されておらず、また8月に実施するイベントは実施されなかつたとなるが、今後のどのように対応する予定であるのか。	①について 七井創成会では、改めて、来年度にイベントを実施する計画をしており、イベント実施に向けた会議の日程を現在調整中とのこと。引き続き、経過を見守り、支援を検討していきたい。
11	67	観光商工課	①関係各課の情報把握について、具体的にどのように行っているのか。また「支援等必要な情報」の判断はどのように行っているのか。	①について 支援が必要な団体が出た場合に、観光商工課へ情報をいただき会議等に参加させていただくことになっている。

質問 番号	新未来 計画 ページ	担当課	事前質問	回答
12	68	企画課	①地域創生活動費補助金の交付団体の補助事業の内容はどのようなものか。 ②地域創生活動費補助金交付団体について、なぜ申請が少ないのか、また根本的問題をどのように考えているのか。	①について 小宅古墳群一帯の環境美化に取り組む亀岡八幡宮里山の会の1団体。 ②について 広報ましこ・町ホームページのほか、町民団体への現況調査アンケートの際、33団体すべてに制度案内のチラシを同封したが、相談で来庁された団体は2団体であったことから、制度を理解されるに至っていない。補助対象事業を「地域等の課題を継続的に解決し次世代へ引き継ぐ活動で、イベント等一過性でないもの」としていることも影響しているとも考えられる。交付団体を増やすには、制度の一層の周知のほか、制度の見直し(イベントを可とするなど)が考えられる。
13	68	高齢者支援課	①全国的にも益子においてもいきいきクラブ参加者が減少しているが、その中で老人クラブ先進地の市貝町の状況はどのようなようであったか。	①について 市貝町では、市貝町社協が主体となり、各クラブ会長の負担軽減を実施したことによる解散クラブの減、また、クラブの各会員による勧誘運動「一人2声かけ運動」を実施したことにより会員数増加につながっていた。
14	68	生涯学習課	①花いっぱい運動について、植栽に関してのアドバイザーを活用した組織があったか。また、活用した組織がありましたがその効果はどのようなようであったか。	①について 上大羽自治会で活用し、植栽した品数の数が増えた成果があった。
15	69	企画課	①地域創生活動コンテストの概要と募集方法はどのようなものであるか。	①について 対象事業は、地域等の課題を継続的に解決し次世代へ引き継ぐ活動、対象団体は、一般の団体のほか、地域創生活動費補助金交付団体、募集期間は、11月20日～12月22日、選考委員会は、委員会の判断を受け町長が最終的に受賞団体を決定する。募集の周知は、広報ましこ・町ホームページのほか、新聞等により行う予定である。